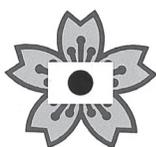


国防は最大の  
福祉である  
初代会長 故 高橋季義



# 國の支え

(故中井信夫元大阪府議会議長・95才)

関西防衛を支える会  
(略称・関防会)  
〒542-0081  
大阪市中央区南船場3-11-10  
心斎橋太陽ビル7階  
TEL 06-6241-1124  
発行人 濱野晃吉  
編集人 新川貞敏  
印刷所 (株)新聞印刷

第58号

(春季号)

平成26年4月1日(火)

(皇紀2674年)

(大正紀元103年)

(昭和紀元89年)



前列左・田中市議、中央・前会長夫人 高橋佳奈子さん (3月1日)

## 田中まさたけ(37才)西宮市議會議員(弊会常任理事) 議員活動10周年記念セミナー

衆議院議員の野田聖子でございませう。現在は自由民主党の第52代目の総務会長というお仕事をいただきまして、1年3カ月が経過としております。

今日は私がとても大切にしている弟であります田中さんの10年目の締めのお祝いということで、考えてみたら1年3カ月、いろいろな公務、党務がございまして、市議會議員の講演会というのをはじめ始めてございまして、そのくらい私が田中さんを愛しているというところを是非後援会の皆さま方にもご理解いただいでご支援をお願い申し上げます。

私は去年国会議員20年を迎えました。衆議院議員が26歳で1期途中、そして最初の選挙を29歳で落ちました。その時に5万5千人の方に、どこの誰かもわからないような私の名前を書いてくれたこと、後援会の方に甲子園球場に連れてこられたことを今でもはっきりと覚えています。甲子園球場を満員にするだけの方々に名前を書いてもらったのだと。だから頑張らなくてはいけないのだと。そして

だと思っている人はほとんどいない。だからこそ私は総務会長として、いわゆる第一次政権のときにお友達内閣と揶揄されて短命に終わった安倍さんの政権を少しでも長く堂々と運んでいけたらいい。仲間として、総務会長としてお支えしたいなと思っております。

### 講演

## 日本の近未来(要旨)

自民党総務会長 野田 聖子(52才)

32歳のときに多くの皆さんに助けられて初当選。以来、去年で20年です。その時の落選中の経験が今の私の原点になっております。私は安倍晋三総理大臣と同期の桜です。岸田外務大臣や茂木経産大臣とも同期の桜です。でも私と安倍晋三さんがお友達



はりお金です。福祉の充実にしても、教育の充実にしても、安全保障にだってお金はかかります。外交だってお金はかかります。そういものもしっかりと支える基盤である経済が20年かけて壊れてきているわけですから、それをしっかり立て直してはじめて、いろいろな政策を推進できるというものであります。それがまたまた皆さまのところに届いていないはずですから、政権を頂いた3年間は地にかじりついてでも経済の再生の本気で、支えてもらいたいと思っております。昨年1年

行かなくなる人が増えることは、民主党政権ではない私ども不安を感じているところ。また、民主党政権は公共事業を辞めようとしていた。ですが、辞める理由なんてなかったのです。だから、その象徴として一番最初に挙げられたのが八ッ場ダムでした。これは8割から9割できていたけれども、象徴として、ここまでやったら辞めてしまおう、民主党政権は公共事業を嫌っているというシボルとして辞めました。けれども、結果、3年後にはダムの工事を再開しました。

第17回・関西防衛を支える会  
**定時総会の御案内**

日時 平成26年4月20日(日)  
会場 ホテル・グランヴィア大阪  
大阪駅直上20F  
総会 14:00~14:45  
講話 15:00~16:30  
講師 志方俊之氏  
防大2期・帝京大学教授  
懇親会 17:00~19:00

第48回 関防会の歴史勉強会 中島サロンのご案内

日時 平成26年4月19日(土曜日)午後4時から  
講師 木村 三浩氏(57才・慶応大学法学部卒)  
猪瀬元東京都知事を徳州会の徳田虎雄理事長に紹介、選挙資金の提供を持ちかけた大物右翼(『週刊文春』12月5日号)。  
演題 北方領土を取り戻す方法  
この演題で、読売テレビ「たかじんのそこまで言って委員会」で第一回「日本オッサン大賞」を受賞。

日時 平成26年6月21日(土曜日)午後4時から  
講師 徳永信一弁護士(65才・京都大学法学部卒)  
沖繩集団自決事件は革命命だった、とするノーベル文学賞の大江健三郎氏と岩波書店を相手に名誉棄損で争った元守備隊長の梅澤裕氏(98才、陸軍士官学校52期・元陸軍少佐)の訴訟原告団長。  
演題 崩壊した「軍命令」説  
沖繩戦で集団自決に関する連載を一方的に拒否されたとして、琉球新報社を相手に起こした沖繩の作家・上原正稔氏「バンドラの箱掲載拒否訴訟」で勝訴を勝ち取った。沖繩タイムスや琉球新報など沖繩メディアの度を越す偏向報道を解説する。

会場 錦城閣 ☎06-6941-2185  
地下鉄谷町線、京阪電車天満橋駅直上  
キャッスルホテル3F(中国料理店)

会費 5,000円(含む飲食代)  
40才未満は3,000円(含む飲食代)  
学生は2,000円(含む飲食代)



# 関防会歴史勉強会

## 中島サロンの第47回

2月22日

本日の講師を務めさせて頂きます、黒田と申します。乃木將軍と言えは皆様どのような印象をお持ちでしょうか？一般的には東京の赤坂にある乃木神社が浮かびますが、国民的英雄です。しかし小説『坂の上の雲』により愚将のイメージが定着しているように思います。確かに日露戦争における旅順攻防で多数の戦死者を出した事実はありますが、旅順と言いつつは難攻不落の永久要塞と呼ばれておりました。これを僅か半年ありまで落としたと言つのは世界史レベルで見ても大偉業であったと思えます。乃木將軍であったからこそ、將軍の率いる第3軍は勇戦に戦い日本勝利への道を拓いたのです。

### 將軍の生い立ち

乃木將軍は嘉永2年(1849)旧曆11月11日に、太陽曆になったのは明治5年の12月ですから、新曆の12月25日に長州藩の支藩・長府藩士であった乃木希次と壽子の三男として江戸藩邸に生まれました。兄二人が夭折しましたので実質上は嫡男として育てられました。將軍も兄のように生誕時から身体が弱く、父の希次は幼多病を無人(なぎと)と名付けました。当時は名前と反対の名前を付ければ健全な子供に育つと言われがあり、普通では使われない名前を付けたと伝わっています。しかし、幼年期の無人は依然として虚弱体質で臆病だったそうです。だから「無人」ではなく「泣人」だと陰口を叩かれていたそうです。

そんな我が子の将来を憂えた父は、突き放して厳しく育てたと言われています。例えば寒い冬の日に無人が思わず寒いと口にするとうちはさうか？では暖かしてやろうと并戸端に連れて行き冷水を頭から何度も掛けたりです。そして全身を乾布摩擦したそうです。こんな父の深い愛情を受けて、持ち前の心優しい率直な少年に育ちました。

長府藩上層敷は、かつて忠臣蔵の赤穂浪士を預かった屋敷です。そのような縁に無人少年は泉岳寺に何度も参拝したそうです。これは、乃木將軍の忠誠の精神を育んだものと知られています。

安政5年(1858)11月に父・希次が国元の長府へ帰国を命じられ無人も長府藩に帰国しました。文久2年(1862)、無人は14才となり元服して名を「源三」と改めました。身体が未だに虚弱であった源三は学問で身をたてようと志し、親の反対を押し切り玉木文之進の元に出奔します。玉木家は乃木家と親戚でもあり、また父・希次と文之進は親友でもありました。そして吉田松陰の叔父さんでもあります。

文之進は出奔した源三を許さなかったのですが、やがて住み込みを許可しましたが、学問は教えずに、

### 嗚呼！田原坂・啼くな雲間の時鳥

その退却戦の際に、明治天皇から下賜された聯隊旗を薩摩軍に奪われてしまったのです。あるまじき大失態に、乃木は死をもって大罪を償う他はないとばかりの奮闘ぶりを発揮します。同年4月に官軍が熊本城を包囲する薩摩軍を破りますと乃木はその功績を称えられ中佐に昇進し、熊本鎮台参謀に任じられました。聯隊旗喪失の失態も、この功績を認められて無罪となったわけです。

しかし、乃木の心は暗く沈んで割腹自決しようとするまにその時、同じ熊本鎮台の参謀で同じ長州出身の親しかった児玉源太郎少佐から、「死ぬなら立派に死ね、しかし、貴様が腹を切ったところで軍旗が出てくる訳でもあるまい、仮に軍旗が出てきたとしても責任はそれで済むのか、武士が過失を犯しても切腹すれば責任が解除されるというのが俺たちが学んだ武士道なのか」「死ぬと決めたならば、過失を償うだけの働きをしてからでも遅くはあるまい、ただ死ぬのは犬死だ」と児玉の決死の説得を涙ながらに受け入れた乃木は自決を思い止まりました。

### 日本近代化の黎明期

明治維新を迎えたあとも次々と出世を重ねた源三は明治4年(1871)11月に22才で陸軍少佐に抜擢されました。後に彼は、何よりも愉快な日だったと述懐しています。

同年12月に正七位の官位をもらいます、これを機に「希典」と改名しました。これ以降は乃木と呼び捨てて話します。何卒お許しをお願いします。

明治8年(1875)12月、熊本鎮台歩兵14聯隊長心得に任じられて小倉に赴任します。鎮台とは、後年の師団に相当します。何で心得かと申しますと、陸軍では聯隊長の階級は、本来中佐以上なんです、乃木は少佐で任じられたので、中佐に昇進するまでは心得と呼ばれたのです。

# 名将・乃木希典將軍

高校教師 黒田 裕樹(46才)



明治18年には少将に昇進しました。その後上司とそりが合わず休職することもありました。

明治27年(1894)日清戦争が勃発すると乃木は歩兵第一旅団長として出陣して遼東半島に上陸し、清国にあって最重要の拠点であった旅順の要塞を二万数千人の兵力で一日で陥落させました。

乃木は日清戦争終結直前の明治28年(1895)4月に軍功を称えられ陸軍中将に昇進しましたが、このときに旅順の要塞を一日で落とすことが、後の日露戦争で彼に塗炭の苦しみをもたらすことになるとは、当時の誰も予測し得ないことでした。

乃木は我が国の領土となった台湾総督を努めました。大臣級の要職である総督から師団長と言つのは格下げの感がありませんが、乃木は全く気にせず喜んで赴任地の香川へと向かいます。

善通寺に赴任した乃木は、将兵を厳しく鍛えると同時に深い慈愛をもって接し第11師団は全国の模範師団と謳われるまでになり、所属していた将兵は日露戦争の際に乃木の第三軍に属して旅順攻略戦で奮闘を重ねることに

なりませぬ。乃木は部下にある嫌疑がかけられた事をきっかけに師団長を辞任して休職の日々を送る事になりましたが、そんな乃木を優しく見守り続けられたのが明治天皇です。

その後も明治天皇は乃木を親愛され、明治35年(1902)11月に熊本で陸軍大演習が行われた際にもお召し列車に同乗させ西南の役の激戦地であった田原坂を列車が通過すると陛下は乃木に与えよ、と次ぎの御製を詠まれた。

### ものふの攻めたかひし

田原坂松も老木になりにけるかな

### 日露開戦

明治37年(1904)2月に日露戦争が勃発すると、乃木は天皇ご自身が選ばれた親任官として第三軍司令官に任じられ戦地に赴きました。ロシアは大国であり世界最大の陸軍をもっていましたので政府首脳でさえ勝てるという自信がありませんでした。しかし、ロシアの東アジア侵略を黙って見逃しては、その魔手は我が国に及ぶのは時間の問題です。我が国は独立を守るためロシアに宣戦布告して日露戦争が始まりました。

日本陸軍は満洲でのロシア軍主力との早期決戦を想定しており遼東半島の一大軍事拠点であった旅順の攻略はそれほど重要視していませんでした。一方、日本海軍は旅順港を根拠地とするロシア太平洋艦隊を壊滅させたいと、ヨーロッパから回航して行くであろうバルチック艦隊との決戦を想定しておりました。その前提として旅順港を自力で陥落させる心積もりでした。陸軍に対しては旅順攻略への援助は不要であると言いつつ攻撃しましたが上手いかず陸軍に旅順攻略を要請しました。しかし開戦から5ヶ月も経った7月であり、その間に旅順要塞を強化する時間を与えてしまひ、陸軍の攻略戦を大いに苦しめる原因となりました。

陸軍としても北進する第二軍の背後を脅かされないために旅順攻略の必要性は認識しており、乃木を司令官とする第三軍を編成して出動させていました。この間に乃木は陸軍大将に昇進しています。乃木が三軍の司令官に選ばれた理由は、前述したように日清戦争で旅順を一日で落とす経験があったからです。陸軍も錯覚してロシアの兵力を二万五千人と見積もり、その三倍の兵力の五万人を三軍に与えました。それは児玉源太郎参謀次長を始めとする陸軍の完全な誤算でした。攻撃は守備の三倍の兵力を要するという兵理を無視したものでした。

明治31年(1898)に清国から租借して以来、ロシアは旅順に多大な労費を加え旅順要塞は兵力四万七千人を誇る世界一の堅城と化し、いかなる敵を引き受けても「3年は支える」という永久要塞になっていたのです。こんな事情も知らず乃木はロシアとほぼ同数の兵力で旅順攻略の指揮を執ることになりました。

### 明治天皇の慧眼

しかし、永久要塞を自称する旅順の堅固さは第三軍の度重なる攻撃にもびくともせず、三軍は圧倒的なロシアの反撃に苦しみながらも健闘を重ねましたが、砲弾不足で無念にも攻撃を中止せざるを得ませんでした。後に第一次総攻撃と言われた戦闘では兵力の3の割りに当たる一万六千人という膨大な死者を出しています。

後年、第一次総攻撃の失敗は乃木の無能によるものと非難されることが多いようですが、そもそも海軍の遅すぎた攻撃要請が旅順の永久要塞化をもたらした事実があり、事前に情報入手を怠った陸軍参謀本部こそ主因があるのではないのでしょうか。

約1週間に及んだ第一次総攻撃における日本軍の猛攻に、ロシア軍は大いに苦戦していました。事実、旅順開城後にロシアの將軍は「もし24日に日本側の増援部隊があれば要塞を放棄していたかもしれない」と述べています。三軍にあつた数日分の砲弾があれば、この時落ちていたかも知れません。一方でロシア軍に精神的なものを含めた大きな打撃を確実に与えていたことを私達は忘れてはならないでしょう。

これだけの犠牲が出ると通常であれば全軍が意気消沈するものですが、三軍は「次には勝てる」と意気軒昂でした。最悪の環境や不利な条件下でも希望を失わず、敗れてなお闘志を燃やし続けた三軍を支えたのが乃木という「腹を括った」司令官の存在であったのです。明治天皇のご慧眼と「乃木なればこそ」が最終的に勝利をつかむことが可能となったのです。

明治45年(1907)7月20日、突如として明治天皇のご不例が発表されました。この年4月から裕仁親王殿下(昭和天皇)が学習院初等科に入学され学習院長として明治天皇から殿下の教育を託されていた乃木は帝王学を厳格に教育されたのです。

明治天皇の大喪の儀は大正元年9月13日に行われましたが9月12日の夜、乃木は遺書と辞世を書き残し、遺体に乗せた御靈輦(靈柩車)が宮殿を出発する合図の号砲が打たれた午後8時過ぎに自宅で静子夫人と共に、先帝の後を追って自刃されました。享年64才でした。

(以上要旨)

私は紹介にありましたように、シベリアに11年4ヶ月間抑留されて、帰国したのは昭和30年12月26日で抑留者の一番最後の帰国でした。過去にも話した事がありますが、昭和15年2月に陸軍士官学校を卒業して赴任したのは高知県隊の44隊です。当時44隊は満洲の虎林(こりん)に駐屯しており、そこに赴任したわけですが、虎林は永久要塞として関東軍が満洲国守備の要衝として永年にわたって築いてきた、厚きメートルのコンクリートで固めた平地要塞です。

虎林に赴任して半年ほどしたら陸軍戸山学校に派遣させられ、また半年後の昭和16年の3月に参謀本部に出頭すべしと命令が来ました。新米の少尉が参謀本部に行けるわけがないと、皆に冷やかされましたが命令ですから参謀本部に行きました。参謀本部の2部、これは情報関係で参謀総長の直轄です。この18班に配属されました。昨日まで演習で山野を走り回っていた血気盛んな青年将校が毎日机の前に座っての暗号や語学の勉強は神経衰弱になるような苦痛でした。

18班は参謀本部第二部長直轄で、無線傍受、解読、方向探知による情報収集が任務です。そのときに集まった同僚は10名でしたがロシア関係が3名、支那関係が4名、英語が3名でした。今、生き残っているのは私と英語をやっていたのが1名ですね。彼は私より1期下ですが、時々テレビに出ています。私はロシア語でした。



情報戦で盗聴は当たり前

当時、幼年学校を出た者はドイツ語、フランス語、をやっていたが、私のように中学出身者(兵庫県立第3中学、現・長田高校)は、英語・支那語・ロシア語が私は英語が好きでなかったため、希望欄に何でも良いと思いついてロシア語と書いたら、ロシア語に回されました。結局ロシア関係の傍受解読の課報に携わることになりました。

解読はロシア語と支那語が中心で、昭和18年でしたかイタリヤのムッソリーニ首相が辞任しましたが、当時の18班がそれを迅速に解読したんです。その情報を上記げたら、そんな馬鹿なことがあるか、と怒られたと言った話があります。また、今のインドネシアで、小林三三(阪急の創始者)商工大臣が色々と交渉している事も我々が解読してマークしてました。それとアメリカの駐日大使館と国務省の連絡電報ですね、これも我々は皆解読して知っていました。

それで、昔間日本の暗号解読は遅れていたと言われませんが、それはウソですね。当時日本の解読は米英にまったく劣ってはいませんでした。最近、アメリカが全世界の首脳の話など傍受していたと同盟国の欧州の首脳が文句言っています、世界の情報戦では当たり前前のことなんです。一般的には言っていないませんが、世界各国がやっ

ていることなんです。ドイツの女性のメルケル首相がいつまでもガーガー言っていますが、これは己の馬鹿さを世界に宣伝しているようなものです。

何故、日本の暗号解読が劣っていたと広まった理由は昭和20年8月の終戦により我々はすべての資料を捨ててしまっただけで証拠を消してしまっただけで、その資料は何トンと云うくらいあったと言われている。米軍の目を逃れるために全部焼却したので日本軍の解読能力を証明するものが無くなったのです。それが大きな原因で戦後日本は米英に劣って、駄目だったと言っているのです。最近になって焼却した筈の資料が個人的に持ち帰った物が発見されています。

(註・昭和20年8月11日、NHKが国際放送でポツダム宣言受諾を連合国に流した事を受けて参戦の機会を窺っていたソ連のスターリンは日ソ不可侵条約があるにもかかわらず、その日満洲に進軍した。NHK海外放送を傍受した海外の陸海軍の現地部隊は混乱を来した、玉音放送の4日前のこと当然だ

関東軍特種情報部

元陸軍少佐 山本 明 (陸士53期・95才)

る)

生で電話する愚昧の首相

私は終戦当時、満洲の関東軍特種情報部・孫呉通信所の所長をしていました。それでシベリアに連行されたのですが、(昭和)30年に帰国した関東軍特種情報部員で現在の生存者は私一人になりました。わりと生き残っているのが支那関係者と英語関係ですね。英語で思いつけるのはシンガポールです。

シンガポールの海正面は非常に堅固な要塞です、しかしマレー半島の裏は弱くから至急手当をしなければならぬ、と英軍司令官が本国に電報を打っているのです。これを解読したのが(陸士)42期の井上少佐でした。私は、この方に可愛がってもらいましたが身体の大きい人で何回かテレビに出ていました。2年ほど前に亡くなりました。

最近、英仏が開発した民間機をサブアラビアに売ると交渉をやっていましたが、それを米国の諜報機関が盗聴して民間のボーイング社に伝えて、その売却交渉を妨害して結局サブアラビアは米国製を購入しました。これは世界では当たり前前の事、経済戦争ですよ。橋本龍太郎首相がアメリカに行つて日米自動車交渉を

する際に電話で生の会話をしているのですが、全部アメリカに盗聴されているのです。日本の手の内をアメリカに晒しているようなものです。情報に關係した者として馬鹿かと云いたくなりますね。

米領事館に侵入して乱数表を盗撮

日本で情報をやっていたのは陸軍、海軍、外務省ですが、陸軍は暗号に関しては、攻撃も防御も出来ていました。問題は米英の外交暗号ですね。支那關係の外交暗号、軍事暗号は100%解読してました、ロシアもそうです。だからあの広大な支那大陸で少数の部隊で支那の大軍を蹴散らす事が出来たのです。解読により支那軍の動きは全部把握出来ていたのです。支那大陸に於ける陸軍の情報解読・方向探知は満点でした。

海軍の暗号は、案外米英に解読されていたようです。それは撃沈された軍艦を引き上げられて暗号解読書が敵手に落ちていたのです。ために案外解かれていたのです。陸軍は、神戸のアメリカ領事館に2度侵入した事があります。侵入して金庫を開けて暗号書の乱数表を全部写真に撮りまして、アメリカの暗号解読に使いました。侵入する状況は映画みたいなものですが、その指揮を執ったのが私が参謀本部で教育を受けた時の教官です。アメリカ

兵も出動、身柄を受け取り、取り調べたをしたが通訳生携行の資料は一旦はソ連側が受け取っている。直ぐに返されていようだが、ソ連側がどのように処理したかが大問題となります。資料の写真撮影は当然あったものと推測すべきである。しかし、ソ連側には全く変化が見られない。我々は当該資料は写真撮影したものと判断していた。敵もそう簡単に尻尾を出さずにいるものだ。そこで我々がとったのは樺太から内地、朝鮮、満洲の各地を総動員しての大通信演習を長期間実施してソ連側の変化を注視した。その結果はソ連側通信網に全く変化を認めず、ソ連側は我が通訳生が持って行った資料を利用していないと判断しました。

この事件によって関東軍司令官、参謀長は更迭、関東軍特種情報部長は予備役編入(部長は少将進級の内示を受けていた)。この男は終戦時、旅順陸軍刑務所に入っていた筈。今回の米国のCIAの事件も恐らく何らかの処罰があったと思われれます。

大事件発生が暗号解読の端緒

苦勞して相手国の暗号を解読しても、暗号は度々変わるものです。一体如何にして新しく変わった暗号を解読するのか、その糸口は相手のちょっとしたミスが解読の端緒となるのです。

その一例。A国は暗号を新しく変えたが、すべての機関に一斉に送ることは現実には困難、そこで新しい暗号が未到着と云う場合もある。その場、古い暗号で送信することにします。当方としてはこんな有り難いことではない。内容は解らないが、この二通は同じものです。古い暗号による解読が出来れば、新しい暗号は苦勞せずとも解読者にとっては解読は時間の問題です。此のようなミスは現実には良くあることです。

アメリカは日本海軍の暗号を解読してました。日本海軍が発する電文で頻度の高い数字はある地域を指すものと仮定してXとします。アメリカはXが解らない。そのときアメリカが打った手はXは水が不足している、と生で自国の司令部に打つわけです。すると傍受している日本の海軍はXはミッドウエーだと艦隊に暗号で送る。それを傍受してアメリカはXはミッドウエーだと判断します。

関東軍司令官更迭される

最近、アメリカCIAの元職員がロシアに逃げていますが、あの事件を見てやほりどこの国も大事件というのがありますね。我々もありました。昭和15年でしたが、我が方の情報を持ってハルピンのソ連領事館に侵入した事件が発生した、夜間ソ連領事館の扉を乗り越えて建物に侵入した事件です。ソ連側も驚いた様子であったようである。侵入したのは関東軍特種情報部チャムス通信所勤務のハルピン学院出身の陸軍通訳生でした。

ソ連側は直ちに満洲国警察に通報して来て、直ちに憲

形式は決まっていますから、注意しないと解読されてしまうのです。

暗号解読で日本に一番協力してくれたのがポーランドです、それからフィンランドですね。ドイツなどは同盟国と言いつつも一切隠して何も教えてくれません。これなど歴史の教訓として日本人は覚えておいて欲しいものです。(一日会至権講演要旨)

(山本明氏は1月5日の講演後の2月10日に夫妻で介護住宅に引越されました。

背筋がピンと伸びて長身ハンサムですが陸士出身で感心していたが、近年は歩行困難になられ外出も控えておられた。この講演が最後になり、歴史の証言者として永年薫陶を拝した者として寂しい限りである・新川記

【註・「特種」の文字は山本少佐の指示による】

開庁58周年記念 航空自衛隊 奈良基地祭

日時 6月7日(土) 午前9時より(予定)  
場所 奈良市法華町1578  
電話 0742-33-3951  
備考 詳細は基地広報室にお問い合わせ下さい

第37普通科連隊 創立57周年記念 行事の御案内

日時 4月20日(日)9:00から  
場所 信太山駐屯地 和泉市伯太町官有地  
電話 0725-41-0090  
備考 JR信太山駅より送迎バスあり  
※詳細は上記駐屯地へお問合せ下さい。

第3師団創立53周年 記念行事御案内

日時 5月18日(日)午前9時から  
観閲式 10:20開始  
場所 陸上自衛隊千僧駐屯地 伊丹市広畑1-1  
電話 072-781-0021  
\*詳細は上記駐屯地へお問合せ下さい

# 米・グレンデール市視察訪問報告

私は現在、強い意志を持って「慰安婦問題」を中心に取り組んでおります。昨年の12月に、日本維新の会は歴史問題検証プロジェクトチーム（座長・中山成彬衆議院議員）を立ち上げました。このプロジェクトでは、最初の任務として「慰安婦問題」を取り上げ、「河野談話見直し」を徹底的に検証していくことになりました。そしてプロジェクトが開始した直後、同じ党の中丸啓衆議院議員から「アメリカ行かないか？」というお誘いをいただきました。私は国会議員になる前から「自分の足で歩き自分の目で見る」ことをモットーに活動してきたので、これも良い機会だと思いつき、お断りしませんでした。その後、中山議員や山田宏衆議院議員からも「しっかり視察してきなさい」という言葉をいただきました。昨年12月18日から泊3日という強行日程で、米カリフォルニア州・グレンデール市などを視察してきました。出発前に中山議員からアメリカで活動して欲しいと、日本の方を紹介してもらっていたので、滞在中は多くの貴重なお話を聞くことができました。

現地では最初に視察したのは、グレンデールの中央公園にある慰安婦像です。帰国してから「像の周りに警備員はいなかったですか？」と聞かれることが多いのですが、私達が訪れた時は、公園にはスケートボードの練習をしている若者や、ベンチで休んでいる老人がいただけで他には誰もいませんでした。しかし、像には綺麗な花がたくさん供えられていたのが、恐ろしく韓国系の団体の方などが毎日のように手入れをしているのだと思います。慰安婦像の横には碑文があり、「20万人の女性が日本の官憲によって強制連行され性奴隷にされた」と書かれています。この碑文を読んだアメリカ人は、一体どう感じるのでしょうか。ひょっとしたらそれをそのまま鵜呑みにして、信じてしまう人もいるのではないでしょうか。

私は慰安婦問題を語る時にいつも言っていることがあります。それは、「隣国と仲が悪い」というのは、世界的に見ても珍しいことではない。「とてつもない」です。イギリスとフランス、ドイツとポーランドなど、隣国と仲が悪いのは当たり前のごとです。そして、それぞれの国が自分たちの歴史の正当性を主張して、それぞれの歴史認識をぶつけ合う。これは世界中のごとでもあることなのです。しかし、日本と韓国の場合、少くおかしなことになっています。そもそも慰安婦問題は日韓の間で抱えている問題のほかに、慰安婦像が建造されたのはア

メリカです。それから二月には、フランスのアンジェリム国際演劇祭で慰安婦を描いた韓国の作品が展示されるなど、ヨーロッパでもこの問題が広がっているようです。この問題に無関係の国々を巻き込んでいる。これはあってはならないことだと思います。

さらにもう一つおかしと言わざるを得ないのは、慰安婦問題における韓国側の主張に「明らかな嘘がある」ということです。だからこそ、この問題は私達の世代で決着させなくてはなりません。私達の子供や孫世代になっても尚、韓国の嘘に対して謝り続けているという状況にはしたくない。だから何としても私達の世代で決着させる。その思いで私は活動しているのです。

国会議員がグレンデール市を訪れるのは初めてだったというところもあって、それを理由にマスコミに変な形で報道されては困るので、今回はあくまでも私的な視察という形で訪問しました。慰安婦像が建てられたことによって、現地ではどのような影響があったのか、子供達に対するいじめは本当にあるのか、そのようなことを調査するためにやってきたのです。当然、現地で抗議活動などは一切行っていません。また、グレンデール市の市長や市議会議員とも面会していません。私達は、慰安婦問題の検証を続けていますが、まだその途中段階なので、検証が終わるまでは抗議をするつもりはないのです。ただし、検証が終われば、「明らかな嘘」が立証された際には、キックオフした形で抗議をしようと思っています。

グレンデール市の人口は19万人で、私の地元伊丹市とほぼ同程度。市議会議員は5人いて、持ち回りで市長を務める制度を取っています。同市の公聴会で慰安婦像建造の採択が行われた時は、5人のうち4人が建造に賛成、1人が反対しました。そして反対した方が、現在は市長を務めているそうです。



衆議院議員・日本維新の会 杉田 水脈（47才）

## 検証・慰安婦問題

モールの一角に記念碑があります。この記念碑の碑文にも「20万人」や「強制連行」、「性奴隷」といったことが書かれています。そしてこのような記念碑がグレンデールやガーデングループがあるカリフォルニア州だけではなく、ニューヨーク州やニュージャーシー州でも、次々と建てられているのです。

視察では、現地で慰安婦像建造の反対活動をしている方々と面会しました。みんな口を揃えておっしゃっているのが、「日本政府からの支援は一切ない」ということです。だからみんな自分で、慰安婦像や記念碑を建てようとしている勢力と闘っています。像の建造に当たっては、必ず公聴会が開かれるのですが、そこで「建てるべきだ」という韓国側の人と「建てるべきではない」という日本側の人がそれぞれ自分の意見を述べ、争うそうです。市議会議員はそれぞれの意見を聞いた上で採択をして、像の建造の可否を決めるのです。

**反論に河野談話を持ち出す**  
元ハーバード大学准教授の目良浩一氏は、現在グレンデールを相手に像の撤去を求めて訴訟を起こしている。私達の視察のお世話をしてくれた方なのですが、氏曰く、公聴会において韓国側は必ず河野談話を持ち出して、

「日本政府も強制連行を認めているではないか」と主張するのです。これを言われてしまうと、日本側がいくら像の建造に反対したところで、採択をする市議会議員は韓国側と同調してしまふ。完全に不利な状況下で闘っているのが現状です。

私達は現地でフェナパーク市のごとく調査しました。同市では昨年、慰安婦像の建造が否決されたのです。この際にも公聴会が開催されました。そして採択の際に決めた手となったのが、日系二世のロバート・ワダ氏が送った一枚の手紙だったそうです。今回の視察ではワダ氏と面会することが出来ました。氏は1950年に勃発した朝鮮戦争において、米軍の兵士として出征した経験があります。また、戦場では効なじみの友人を「くすなど非常に辛い思いをしたそうです。そして、氏との面会で一つ分かったことがあったのですが、それは「日系人」とはいつても二世・三世となると、アメリカに対して愛国心を抱いているということでした。ワダ氏はアメリカに忠誠を誓う「アメリカ人」なわけです。そして氏は、1人の「アメリカ人」として、フェナパーク市の公聴会に手紙を送りました。内容は以下のようになります。「我々が命懸けで戦って守った朝鮮半島なのに、そこに

住む韓国人がこのような碑をアメリカに建てようとしていることは許せない」  
この手紙がフェナパーク市の市議会議員の心を動かして、最終的に像の建造は否決されたのです。  
在ロサンゼルス総領事の新興潤氏とも面会しました。この方は、現在アメリカで繰り広げられている慰安婦像建造の動きに対して、非常に大きな問題意識を持っている方でした。そして「あくまでも個人の見解として」「日本に居る人から見たら対岸の火事かもしれない。しかし、アメリカに住んでいる日本人や日系人にとつたら、生活に直結する問題なんです。実際に子どもたちは虐めに遭っている。これは火事なんだから、消火活動をしなければいけない」といったことを述べていました。しかし、日本政府が「外交問題にはしない」という公式声明を出しているのに、総領事の立場としては、それに従うしかないというのが現状です。

現地の日本人・日系人は、必ずしも像の建造に反対している人ばかりではなく、中には賛成している人もいます。訪問中に日系米国人市民団体のケイシー・マサオカ氏と、同団体に所属する方々と話をする機会がありました。彼らは日本国内にいる反日的な人と全く同じ思想の持ち主でした。私はこの時、米軍が1944年に作った調査書を持参していました。これは昨年、「テキサス親父」とトニー・マラーノ氏が米公文書館で取り寄せ、YouTubeの動画で紹介していた資料と同じもので、米軍が当時ビルマにあった日本の慰安所を調査した時に作られたものです。この調査書は、20人の朝鮮人慰安婦に聞き取り調査をしたと書かれており、①慰安婦達が韓国人の業者に集められて慰安婦になったこと、②高額の給料を貰っていたこと、③中には日本の将兵と結婚した人がいたことなどが明らかにされています。つまりこれを読めば、韓国側の主張が捏造であることが分かるのです。そこで私達はこの調査書を見せながら、強制連行がなかったことや性奴隷ではなかったことをマサオカ氏らに説明をしたのです。しかし彼らは「その調査書にはそう書いてあるかもしれないが、私がこの前ゴルフに行った時に、友人が「慰安婦は強制連行された」と言っていた」という返答をして、一切聞き入れてはくれなかったのです。挙げ句の果てには「日本軍は南京大虐殺など他にも酷いことをやったから、とにかく謝罪すべきだ」と、とにかく日本を責めることに終始して、結局この面会は物別れに

終わったのでした。  
ケイシー・マサオカ氏のような方は、日本国内にもたくさんいます。しかし韓国側の主張を受け入れ、謝罪と賠償を繰り返すことは、もう止めなければなりません。だからこそ、私達は「事実の検証」をしっかりやらなくてはならない。今まずやるべきことは、徹底的に調査をして、事実を表に出すことです。その事実を踏まえて日本政府はどうするのか、河野談話をどうするのか、新しく安倍談話を出すのか……今後の方針を決めなくてはなりません。また、それに対する韓国政府はどう反応するのか、アメリカやヨーロッパの国々はどう判断するのか、見極める必要もあるでしょう。とにかくこのような流れに持っていくためにも、まずは事実を導き出さなくてはなりません。私は2月の予算委員会の質疑の際にも言いましたが、「嘘も100回言えば真実になる」と言っている韓国に対峙するためには、真実を1000回叫んでいかなければならないと思っています。

**我々世代で解決を**  
慰安婦問題の壁は厚い。今日明日で解決出来ることではないでしょう。日本維新の会としては、河野洋平元官房長官の参考人招致を要求しています。しかし自民党が拒否していることとあって、我々の要求を受け入れてくれません。だからこそ国民が一丸となって、河野談話の見直しをせざるを得ない状況にしなければなりません。そのために、私は現在「慰安婦問題」に関する河野談話の見直しを求める国民運動」という署名活動を行っています。慰安婦問題があることと、悔しい思いをしている方や怒りを感じている方はたくさんいると思うのです。日本の名誉を傷つけるこの問題を、これ以上放置するわけにはいきません。必ず我々の手で、我々の世代で解決しなければなりません。ぜひ皆様、ご協力をよろしくお願いいたします。

そうです。「日本政府も強制連行を認めているではないか」と主張するのです。これを言われてしまうと、日本側がいくら像の建造に反対したところで、採択をする市議会議員は韓国側と同調してしまふ。完全に不利な状況下で闘っているのが現状です。

私達は現地でフェナパーク市のごとく調査しました。同市では昨年、慰安婦像の建造が否決されたのです。この際にも公聴会が開催されました。そして採択の際に決めた手となったのが、日系二世のロバート・ワダ氏が送った一枚の手紙だったそうです。今回の視察ではワダ氏と面会することが出来ました。氏は1950年に勃発した朝鮮戦争において、米軍の兵士として出征した経験があります。また、戦場では効なじみの友人を「くすなど非常に辛い思いをしたそうです。そして、氏との面会で一つ分かったことがあったのですが、それは「日系人」とはいつても二世・三世となると、アメリカに対して愛国心を抱いているということでした。ワダ氏はアメリカに忠誠を誓う「アメリカ人」なわけです。そして氏は、1人の「アメリカ人」として、フェナパーク市の公聴会に手紙を送りました。内容は以下のようになります。「我々が命懸けで戦って守った朝鮮半島なのに、そこに

住む韓国人がこのような碑をアメリカに建てようとしていることは許せない」  
この手紙がフェナパーク市の市議会議員の心を動かして、最終的に像の建造は否決されたのです。  
在ロサンゼルス総領事の新興潤氏とも面会しました。この方は、現在アメリカで繰り広げられている慰安婦像建造の動きに対して、非常に大きな問題意識を持っている方でした。そして「あくまでも個人の見解として」「日本に居る人から見たら対岸の火事かもしれない。しかし、アメリカに住んでいる日本人や日系人にとつたら、生活に直結する問題なんです。実際に子どもたちは虐めに遭っている。これは火事なんだから、消火活動をしなければいけない」といったことを述べていました。しかし、日本政府が「外交問題にはしない」という公式声明を出しているのに、総領事の立場としては、それに従うしかないというのが現状です。

現地の日本人・日系人は、必ずしも像の建造に反対している人ばかりではなく、中には賛成している人もいます。訪問中に日系米国人市民団体のケイシー・マサオカ氏と、同団体に所属する方々と話をする機会がありました。彼らは日本国内にいる反日的な人と全く同じ思想の持ち主でした。私はこの時、米軍が1944年に作った調査書を持参していました。これは昨年、「テキサス親父」とトニー・マラーノ氏が米公文書館で取り寄せ、YouTubeの動画で紹介していた資料と同じもので、米軍が当時ビルマにあった日本の慰安所を調査した時に作られたものです。この調査書は、20人の朝鮮人慰安婦に聞き取り調査をしたと書かれており、①慰安婦達が韓国人の業者に集められて慰安婦になったこと、②高額の給料を貰っていたこと、③中には日本の将兵と結婚した人がいたことなどが明らかにされています。つまりこれを読めば、韓国側の主張が捏造であることが分かるのです。そこで私達はこの調査書を見せながら、強制連行がなかったことや性奴隷ではなかったことをマサオカ氏らに説明をしたのです。しかし彼らは「その調査書にはそう書いてあるかもしれないが、私がこの前ゴルフに行った時に、友人が「慰安婦は強制連行された」と言っていた」という返答をして、一切聞き入れてはくれなかったのです。挙げ句の果てには「日本軍は南京大虐殺など他にも酷いことをやったから、とにかく謝罪すべきだ」と、とにかく日本を責めることに終始して、結局この面会は物別れに

住む韓国人がこのような碑をアメリカに建てようとしていることは許せない」  
この手紙がフェナパーク市の市議会議員の心を動かして、最終的に像の建造は否決されたのです。  
在ロサンゼルス総領事の新興潤氏とも面会しました。この方は、現在アメリカで繰り広げられている慰安婦像建造の動きに対して、非常に大きな問題意識を持っている方でした。そして「あくまでも個人の見解として」「日本に居る人から見たら対岸の火事かもしれない。しかし、アメリカに住んでいる日本人や日系人にとつたら、生活に直結する問題なんです。実際に子どもたちは虐めに遭っている。これは火事なんだから、消火活動をしなければいけない」といったことを述べていました。しかし、日本政府が「外交問題にはしない」という公式声明を出しているのに、総領事の立場としては、それに従うしかないというのが現状です。

韓国各地に蔓延  
グレンデール市の慰安婦像だけではなく、アメリカでは慰安婦の記念碑も建てられています。私は視察の際に、グレンデール市から車で30分ほどの所にあるカーデングローブ市も訪問しました。同市では、ショッピング

韓国各地に蔓延  
グレンデール市の慰安婦像だけではなく、アメリカでは慰安婦の記念碑も建てられています。私は視察の際に、グレンデール市から車で30分ほどの所にあるカーデングローブ市も訪問しました。同市では、ショッピング

韓国各地に蔓延  
グレンデール市の慰安婦像だけではなく、アメリカでは慰安婦の記念碑も建てられています。私は視察の際に、グレンデール市から車で30分ほどの所にあるカーデングローブ市も訪問しました。同市では、ショッピング

**御人会の御願い**

関西防衛を支える会では会員募集中です御人会御希望の方は下記口座にお振り込み下されば会員となります

三井住友銀行守口支店  
普通口座 1261314  
口座名 関西防衛を支える会

郵便振り込み  
口座番号 00960-2-137035  
口座名 関西防衛を支える会

一般会員	年会費	3000円
維持会員	々	10000円
法人会員	々	20000円

\* 1口以上何口でも申し受けます。  
銀行振り込みの場合は小会まで住所など御連絡下さるようお願いいたします。  
(振り込み用紙には住所の記入が無い為、以後のご案内が出来ませんので)。  
\* 会計年度は 4 / 1 ~ 3 / 31 です

